

化学物質等安全データシート

1 化学物質等及び会社情報

会社名 ケミックス株式会社
住 所 東京都豊島区池袋 2丁目 51-14
飛翔ビル6F
電話番号 03-5950-9970 Fax 番号 03-5950-3342
作成・改訂日 2012年7月23日

● 化学物質等の名称 ハイドロプルーフ HT-G1

2 組成、成分情報

製品名：ハイドロプルーフ HT-G1
混合物：カルシウム＋ラウリン酸
特 性：コンクリートに混和することで内部鉄筋の防錆効果、重金属類を固定しポゾラ反応を誘発させる。
地盤改良の安定処理剤として改良土の隙間にゲル状となって発生し周辺の水分と化合しながら結晶化していく。抱水性が高く気相が少ない。
結晶鉱物化が進行する程強度が増し、透水係数が低くなる。

官報公示整理番号

成分名	化審法	安衛法
1. カルシウム	—	—
2. ラウリン酸	—	—
3. 水	対象外	—

3 危険有害性の要約

分類の名称	分類の基準に該当しない。
危険性	特別な危険性は報告されていない。
有害性	皮膚、眼、粘膜を強く刺激し、炎症や薬傷を起こす恐れがある。

4 応急措置

目に入った場合	<ul style="list-style-type: none">直ちに清浄な流水で15分以上洗浄した後、医師の診察を受ける。洗浄の際には、まぶたを開いて眼球のすみずみまで水が行き渡るようにする。寸秒でも早く洗眼を始め、入った物質を完全に洗い流す必要がある。洗眼を始めるのが遅れると障害を増大させる恐れがある。
皮膚に付着した場合	<ul style="list-style-type: none">汚染された衣類、靴などを速やかに脱ぎ捨てる。多量の水または微温湯を流しながら洗浄する。必要に応じて石鹼などを用いて十分に洗い落とす。
吸入した場合	<ul style="list-style-type: none">その場で痛みなどの症状がなくても、障害が遅れて現れることがあるので、必医師の診察を受けること。被災者を直ちに空気の新鮮な場所に移し、衣服、ネクタイ、ベルトなどをゆるめ、毛布などで保温して安静にする。直ちに医師の診察を受ける。その間、呼吸が停止、あるいは弱い場合には、状況に応じて人工呼吸を行う。
飲み込んだ場合	<ul style="list-style-type: none">嘔吐がある場合は、頭を横向きにして窒息に注意する。水でよく口の中を洗浄し、直ちに医師の診察を受ける。

化学物質等の名称	ハイドロプルーフ HT-G1
5 火災時の措置	
消火方法	<ul style="list-style-type: none">・適切な保護具を着用する。・火災を増大させる危険性があるものを周囲から速やかに取り除く。・関係者以外は安全な場所に退去させる。・消火活動は風上から行い、周囲の状況に応じた適切な消火方法を用いる。・この物質は不燃性であるが、燃焼や高温により分解し、有毒なヒュームを発生する恐れがあるので注意する。
消火剤	<ul style="list-style-type: none">・水噴霧・泡・粉末・二酸化炭素
<hr/>	
6 取扱い及び保管上の注意	
取扱い	<ul style="list-style-type: none">・取扱いは、換気のよい場所で行い、漏れ、あふれ、飛散しないよう注意し、みだりに蒸気を発生させない。・適切な保護具を着用し、吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないようにする。取扱い後は、手、顔などを良く洗う。
保管	<ul style="list-style-type: none">・密栓した後、規定の場所に保管する。・酸化剤、酸から離して保管する。
<hr/>	
7 暴露防止及び保護措置	
管理濃度	設定されていない。
許容濃度	設定されていない。
設備対策	設定されていない。
保護具	
保護眼鏡	保護眼鏡（ゴーグル型）。状況に応じ保護面。
保護手袋	耐食性のある手袋。
呼吸用保護具	状況に応じ防毒マスク、簡易防毒マスク等。
保護衣	不浸透性の保護服。状況に応じ前掛け、長靴等。

化学物質等の名称 **ハイドロブルーフ HT-G1**

8 物理的及び化学的性質

外観等	無色透明液体又は半透明液体
融点	情報なし
密度	1.04～1.14 g/ml
沸点	情報なし
蒸気圧	情報なし
蒸気密度	情報なし
溶解度	情報なし
粘度	15mPa・s以下
PH	5.8～6.8
その他	情報なし

9 安定性及び反応性

安定性・反応性	通常の手扱い条件においては安定。 一酸化炭素、二酸化炭素、酸化けい素、金属酸化物などの危険有害な分解生成物を生じる恐れがある。 酸化剤、酸などとの接触に注意する。
---------	---

10 有害性情報

刺激性	・知見なし
急性毒性	・知見なし
がん原性	・知見なし
変異原性	・知見なし
生殖毒性	・知見なし
催奇形性	・知見なし
その他	・知見なし

11. 環境影響情報

環境影響情報	漏洩・廃棄などの際は、環境に影響を与える危険性があるので、取扱いに注意する。
--------	--

12. 廃棄上の注意

- ・処理に際しては十分な知識を有した専門家に相談した後、危険性に充分配慮する。
- ・適切な保護具を着用する。
- ・関係法規や条例に従って処理する。
- ・保健衛生上危害を生じる恐れがないようにする。
- ・空容器を処分する時は、内容物を完全に除去した後に行う。
- ・処理施設がないなどの理由で廃棄できない場合は、許可を受けた産業廃棄物処理業者に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。

13 輸送上の注意

国連の分類	・運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷のないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。
国連番号	クラス 5.1 (酸化性物質 P.G. 3) 1454

化学物質等の名称	ハイドロプルーブ HT-G1
----------	----------------

14 適用法令

- | | |
|---------|------------------|
| 消毒法 | ・ 非該当 |
| 毒物 | ・ 非該当 |
| 労働安全衛生法 | ・ 令別表第一の3 酸化性の物質 |
| その他 | ・ 非該当 |

15. その他の情報

引用文献

- ・Registry of Toxic Effects of Chemical Substances NIOSH (1985-85)
- ・危険物防災救急要覧「化学物質の性状と取り扱い」

MSDSは、我々が知り得た情報を基に誠意をもって作成しておりますが、記載のデータや危険、有害性の評価に関しては、いかなる保証もなすものではありません。ご使用に先立って、危険、有害性情報のみならず、ご使用になる機関、地域、国の最新の規則、条例、法規制などを調査し、それらを最優先してください。ご購入いただいた商品は安全性の点からも速やかに消費されることを大前提としております。その後、新たな情報や修正が加えられる場合もありますので、万一ご使用時期が大幅にずれ込んだり、ご懸念を抱かれた場合には、改めて弊社にご相談ください。また記載の注意事項は、通常取扱を対象としたものであって、特別な取扱をする場合は状況に適した安全対策を実施の上、十分な注意を払う必要があります。すべての化学製品は『未知の危険性、有害性がある』という認識で扱うべきであり、その危険性、有害性も使用時の環境、扱い方、あるいは保管の状態、期間によって大きく異なります。ご使用時はもちろんのこと、開封から保管、廃棄に至るまで、専門的知識、経験のある方のみ、あるいはそれらの方々の指導のもとで取扱うことを警告します。ご使用各位の責任において、安全な使用条件を設定くださるよう、お願い申し上げます。